

講義動画でチェック!

社会①日本史

サブノートで
分かる!

中世

(中原 千歩 栄光ゼミナール)



◆1



1. 承久の乱

2. 御成敗式目

1. 御成敗式目

● 執権政治

執権政治とは

→執権北条氏が実権を握った幕府の体制。(2代義時～5代時頼まで)

1219年 將軍源実朝暗殺。(源氏の正統断絶)

1221年 (1) →六波羅探題を設置

1223年 新補率法の制定。大田文の作成

1225年 連署・評定衆を設置

● 御成敗式目

1232年 (2) の制定

制定：3代執権北条泰時

基準：頼朝以来の先例→頼朝時代の政治・裁判にならうこと。

武家社会の道理(慣習・道徳)

目的：御家人同士や御家人と荘園領主との間の紛争を、公平に裁く基準。

適用範囲：幕府の支配領域のみ→武家法

※朝廷側→公家法、荘園領主→本所法

主要内容：全51カ条

御家人の所領争論の基準・御家人の所領相続・譲渡の規定・

犯罪に対する刑罰・守護・地頭の職掌など。

1247年 宝治合戦=三浦泰村の敗死

1249年 引付衆を設置

2. 元寇

● 蒙古襲来

元の建国

1206年 (1) 即位

1259年 高麗, モンゴルに服属

1260年 (2) 即位

1268年 高麗使, フビライの国書をもたらす

1270年 三別抄の乱(1273年, 元・高麗によって平定)

1271年 フビライ, 元を建国

1274年 (3)

元軍：元・高麗連合軍約2万8千人は朝鮮南端の合浦を出発。対馬・壱岐・博多湾に侵入, 襲撃した。

◆2



1. チングス=ハー
ン

2. フビライ=ハー
ン

3. 文永の役

日本軍：少式景資を総大将とし、九州に所領を持つ御家人を動員して応戦。

→一騎打ちを主とする日本軍は、集団戦法、てつはう・毒矢を使用する元軍に苦戦。暴風雨が起こり、元軍は撤退した。

1275年 異国警固番役を強化

博多湾岸など九州北部の御家人に、元の襲来に備えて番役を課す。
(1271年より開始)

博多湾岸には石塁（石築地）を構築。

1279年 南宋滅亡

1281年 (4)

元軍：東路軍と江南軍に分かれ再度出撃。

東路軍：元・高麗連合軍約4万人が合浦を出発。

江南軍：旧南宋軍約10万人がのちの寧波を出発。

博多湾沿岸に到着した直後、暴風雨に襲われ撤退する。

3度目の計画もあったが、断念した。

日本軍：幕府の統制のもと、九州地方の武士がよく戦う。

その後も攻撃に備えて警戒を緩めなかった。

西国一帯への幕府の支配力は強化された。

絵巻物：「蒙古襲来絵巻(詞)」

肥後の御家人竹崎季長が描かせる。武功を子孫に伝えるため。

1293年 (5) の設置

設置：9代執権北条貞時が、機能しなくなっていた鎮西奉行に代わって博多に派遣した鎌倉幕府の役職。

目的：西国警備・九州統治強化

任務：裁判の判決・御家人の指揮

● 蒙古襲来の影響

御家人：鎌倉時代中期以降、御家人は分割相続の繰り返しにより、所領が細分化され、窮乏化が進んだ。

御恩：元軍に勝利したが、新しい土地が得られたわけではないため、幕府は御家人に十分な恩賞を与えられなかった。

奉公：異国警固番役・石築地役継続

→奉公に対する恩賞という原則が守られなくなり、主従関係が崩れる。

惣領制：御家人の困窮化が進んだため、分割相続をやめ、惣領による単独相続へと移行した。

3. 勘合貿易・応仁の乱

● 勘合貿易

《特色》倭寇対策のため、勘合を寧波で査証。

《輸出入品》輸出品：銅 輸入品（唐物）：生糸・銅銭

1401年 (1) , 明と国交を開く。朝鮮にも遣使を派遣。

1404年 明、日本と日明貿易（勘合貿易）を開始。（朝貢貿易の形式）

4. 弘安の役

5. 鎮西探題

教職教養

一般教養

◆3



1. 足利義満

2. 下剋上

- 1411年 足利義持, 朝貢形式に反対し明との国交・貿易を中断。
- 1432年 足利義教, 明との国交・貿易を再開。(幕府の外に大名・寺院も参加)
- 1467年～1477年 応仁・文明の乱
➡以後, 幕府の力が弱まり, 博多商人と結んだ大内氏と, 堺商人と結んだ細川氏が日明貿易の権利を争う。
- 1523年 寧波の乱
➡細川氏の船と大内氏の船が衝突。その後, 大内氏が勘合貿易を独占。
- 1551年 勘合貿易断絶

〇 応仁の乱

1467年～1477年にかけて起こった将軍継嗣問題。

将軍継嗣問題：足利義視(弟) vs 足利義尚(子)・日野富子(妻)

管領家の家督相続争い：斯波氏(義敏 vs 義廉), 畠山氏(政長 vs 義就)

東軍(細川勝元を総大将に約16万) vs 西軍(山名持豊を総大将に約11万)

京都を主戦場に次第に全国に拡大。

《結果》 戦国時代に突入。京都の衰退(足軽の乱暴)・将軍の権威失墜。

(2) の風潮が起こる。

◆4

4. 中世の文学

《和歌集》

歌集	編者・作者	補足
『新古今和歌集』	藤原定家・藤原家隆	後鳥羽上皇の勅撰
『金槐和歌集』	源実朝	万葉調
『山家集』	西行	元北面の武士, 諸国を遍歴

《鎌倉時代の日記》

日記名	著者	補足
『玉葉』	九条兼実	「文治の守護地頭勅許」の部分
『明月記』	藤原定家	歌学, 宮廷の動向, 寛喜の大飢饉
『十六夜日記』	阿仏尼	訴訟のため鎌倉に下った時の紀行文

《鎌倉時代の歴史書》

書名	著者	補足
『吾妻鏡』	編者未詳	『東鑑』ともいう。鎌倉幕府の記録。頼朝挙兵から宗尊親王帰京まで。編年体。
『愚管抄』	慈円	道理と末法思想に基づく。後鳥羽上皇の倒幕計画を諫めるねらい。
『元亨釈書』	虎関師錬	日本最初の仏教通史。

《連歌》

時期	人物	特徴	著書
南北朝	二条良基	基礎・発展	『菟玖波集』『応安新式』

東山	宗祇	大成, 正風連歌	『新撰菟玖波集』
戦国	山崎宗鑑	俳諧連歌	『犬筑波集』

《鎌倉時代の軍記物》

作品	内容
『(1))』	作者：信濃前司行長。琵琶法師が平曲を語る。
『保元物語』	源為朝の活躍を描く。
『平治物語』	義朝の子, 義平を英雄的に描く。
『源平盛衰記』	鎌倉中期の成立。

5. 中世の絵画

《絵巻物》

僧侶関連

絵巻	補足
『法然上人絵伝』	法然の生涯, 門弟の実績
『一遍上人絵伝』	一遍の生涯, 踊念仏, 備前福岡市の様子

寺社の縁起絵巻

絵巻	補足
『北野天神縁起絵巻』	菅原道真の生涯, 地獄絵
『石山寺縁起絵巻』	馬借・当時の大工・水車の絵
『春日権現験記』	春日明神の霊験譚, 貴族・庶民の生活

合戦絵巻

絵巻	補足
『平治物語絵巻』	「三条殿夜討」「信西」「六波羅行幸」の3巻が現存。
『後三年合戦絵巻』	源義家が雁の列の乱れから, 敵の伏兵を見破る場面が有名。

「六道絵」系絵巻

3つの草紙：地獄・餓鬼・病

《室町時代の水墨画》

時期	作者	作品
南北朝	可翁	『寒山図』, 草創期の代表
北山	如拙	『瓢鮎図』(妙心寺退蔵院蔵), 相国寺画僧
北山	周文	『寒山拾得図』(伝), 相国寺の画僧
東山	雪舟	『秋冬山水図』『四季山水図巻』, 相国寺の画僧

《室町時代の能楽》

大和猿楽四座：本所は興福寺と春日社

観世座：観阿弥・世阿弥父子

世阿弥の著作

書名	内容
『風姿花伝』	理論書, 能の神髄を述べている。
『花鏡』	演劇論・秘伝書
『申楽談儀』	子の元能が, 世阿弥の芸談をまとめた。



1. 平家物語

◆5

教職教養

一般教養